教科書 p.152～153

年	組	番
名前		

探究力 UP ワークシート

⑤ 持続可能な貨物輸送のあり方とは？

■資料読解の問い

通信販売は日本の貨物輸送にどのような影響を与えているのだろうか ？

STEP 1　既習事項の確認〔知識・技能〕

1　近年の日本国内の貨物輸送において、最も利用されている輸送機関を教科書 p.148 図 1 を参考に書き出そう。

2　なぜ、STEP 1 の 1 で書き出した輸送機関が最も利用されているのか、その背景を教科書 p.146～149 を参考に説明しよう。

STEP 2　資料の読解〔思考・判断・表現〕

1　教科書 p.152 図 1・2 から、通信販売市場の売上高と宅配便の数や再配達率は、それぞれどのように変化してきているのか、読み取ろう。

2　教科書 p.152 図 3・4 や教科書 p.148～149 で学習したことを参考に、日本の貨物輸送の変化を次の語句を用いて説明しよう。

【　内航海運　鉄道　自動車　高速道路網の発達　】

■国土像探究に向けて

持続可能な貨物輸送のあり方を探究しよう。

STEP 3　自身で探究〔思考・判断・表現〕

1　自動車を用いた貨物輸送には、どのような利点と課題があるのだろうか。教科書 p.153 図 5･6 や教科書 p.144 図 1 のほか、教科書に掲載されている資料やインターネット、図書館の書籍などを用いて調べよう。

2　教科書 p.152 図 1〜4、教科書 p.153 図 5・6 などを参考に、各輸送機関の強みと弱みについて、特に優れている場合は◎、優れている場合は○、課題がある場合は△をつけて、教科書 p.153 図 8 のように観点ごとに整理しよう。また、持続可能な貨物輸送を実現させるには、輸送機関別輸送量の構成比をどのようにしたらよいのか、考えよう。その際、各輸送機関の強みや弱みとともに、地形などの自然環境、大都市との距離、既存の交通網なども加味しよう。

観点	自動車	内航海運	鉄道	国内航空
運送の速さ 輸送機関の営業速度など				
荷物一つあたりの運送コスト 荷物を一つ運ぶためにかかる運転手などの人件費や燃料代など				
環境への負荷 輸送機関の二酸化炭素排出量など				
発送元から受取先までの一貫性 発送元から一度も荷物を載せ替えることなく受取先まで運べるかなど				
現在の輸送機関別輸送量の構成比（2023 年現在）	57.1%	38.3%	4.4%	0.2%
あなたが考える、持続可能な貨物輸送を実現する輸送機関別輸送量の構成比	%	%	%	%
上記の比率を考えた理由				

STEP 4　協働・まとめ〔主体的に学習に取り組む態度〕

1　グループになり、STEP 3 で探究したことを発表しよう。また、どのような課題を解決すると、あなたが考えた構成比を実現できるのかを議論し、ほかの人の意見も聞いて、新たな視点やさらに調べてみたいことなどを書き出そう。

【新たな視点】

【さらに調べてみたいこと】

【そのほか】

振り返り

1　ここまでの学習を振り返って、以下の項目について自己評価をしよう。十分に達成できた項目には◎を、一部は到達できた項目には○を、到達には努力が必要な項目には△を、それぞれつけよう。

通信販売が日本の貨物輸送に与えた影響について、理解できた。	
自動車を用いた貨物輸送における利点と課題について、それぞれ整理してまとめられた。	
各輸送機関の強みや弱み、自然環境などといったさまざまな観点から、持続可能な貨物輸送を実現できると考えられる輸送機関別輸送量の構成比を考え、ほかの人と議論できた。	